

当社開発の緊急自動停止装置「WSシステム」が 新しい安全規格「Safety 2.0」の適合第一号に

記者会見の席上で、荒井常務執行役員がIGSAP 向殿会長より認定証を受領

2018年4月6日、当社本社会議室において、一般社団法人 セーフティグローバル推進機構（IGSAP、会長：向殿 政男 明治大学名誉教授）が創設した「Safety2.0 適合マーク審査登録制度」に、当社が開発した自動停止タイヤローラ/ホイールローダ（WSS-TR、WSS-WL）が第一号として登録され、当社とIGSAPの共同記者会見を実施するとともに、向殿会長から当社 荒井 明夫 常務執行役員 総合技術部長に認定証が授与されました。

当社では、舗装現場でタイヤローラが、また、アスファルト合材工場ではホイールローダが稼働中に、一定の範囲内に作業員を検知した際、自動的に機械を停止させることで、重篤な災害事故を未然に防ぐ装置「WSシステム」を開発し、すでに各現場で導入しています。

「Safety2.0」は、IoTやICT、AI等を駆使して、人とモノと環境を情報でつなぎ、協調して高次元の安全構築を目指す規格として、IGSAPが提唱しているものです。この「WSシステム」の安全の質の高さが「Safety2.0」に適合するとされ、今回の認定に至りました。

荒井常務執行役員より、「舗装・製造現場での重篤な災害事故は、被害者も加害者も同じ仲間。双方を悲しい思いにさせたくない」という想いを記者の皆様へ伝え、「重篤災害ゼロに向けて『WSシステム』が貢献できれば」と語りました。

なお、本記者会見の内容は、当社HP「メディアクリップ」内の各社掲載記事をご覧ください。

URL : <https://www.nippo-c.co.jp/company/media.html>



記者会見 会場風景



IGSAP向殿会長（右）より認定証を授与される
当社 荒井常務執行役員